

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	第2回姫路市国際化推進プラン検討懇話会
2 開催日時	令和3年11月2日（火曜日） 14時00分～16時00分
3 開催場所	イーグレひめじ4階 セミナー室A
4 出席者又は欠席者名	(出席者) 姫路市国際化推進プラン検討懇話会 委員9名 (欠席者1名) (事務局) 観光文化部長、文化国際課長、国際交流センター館長、人権教育課長 他7名
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴1名
6 議題又は案件及び結論等	1 次期プラン項目について 2 次期プラン（素案）について

事務局	1 開 会(14:00)
	2 議 題
	(1) 次期プラン項目について
事務局	【資料1（次期プラン項目）に基づき説明】
座 長	・意見・質問を求める。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティやインクルージョンという言葉は、兵庫県の指針でも使用されているが、一般市民には難しい。ただ、これらの言葉が、今後社会的に普及していくのであれば、プランで使用することはよいと思う。ただ、基本理念「多文化共生社会の実現」と基本目標1「多文化共生の推進（ダイバーシティ）」など、言葉の重複が気になる。 ・資料2プラン素案21ページに、「多様性（ダイバーシティ）と包摂性（インクルージョン）のある社会の実現を目指し～」とあるので、基本目標1「多文化共生の推進（ダイバーシティ）」は「多文化共生」ではなく、「多様性」という言葉を使った方が、後の説明との整合性も取れると思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに項目内に言葉の重複が多い。また、基本目標2（2）の具体的施策の対象が日本人なのか外国人なのかわかりにくい。誰向けに何を目指すのかは、プランで謳わなければいけない大事なところである。
座 長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標1は「多様性の尊重」はどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さまご意見はあるか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2プラン素案21ページに、多文化共生社会の実現のために多様性と包摂性がある社会の実現を目指すと記載があるので、先程のご指摘のとおり、「多様性の尊重」や「多様性のある社会の構築」の方が分かりやすいと思う。
座 長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標2の文言に合わせると、基本目標1は「多様性を尊重する社会の構築」と

	なる。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 1 と 2 を同じような文言にした方が分かりやすいと思う。さらに基本目標 2 について、「包摂性（インクルージョン）」とすれば、理解しやすい。
座 長	<ul style="list-style-type: none"> 我々にとっては馴染みのある言葉でも、市民にとっては難しいかもしれないので、そのようにした方がいいと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> 本文でも多様性、包摂性について触れるなど、より分かりやすい形にした方がよい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> そうすると、基本理念に「多文化共生」、基本目標 1 に「多様性」という順番で出てきて、また施策の柱の（2）に「多文化共生」が出てくる。大・中・小ではなく大・中・大になってしまう。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標の 1、2 は「多文化共生社会の実現」に基づくもの。基本目標 1 は、多文化共生に係る多様性の認識や意識啓発等について具体的施策を述べている。基本目標 2 は、多様な人の互いの考え方、違い、個性を受け入れる、インクルージョンという考え方に基づいて、生活基盤の整備や人材育成、地域づくりへの参画について具体的施策を掲げている。 国際交流については、様々な交流のあり方がある。基本目標 3 は、日本人市民、外国人市民、訪日外国人など、多様な方々との国際交流のあり方について述べている。 皆さまのご意見によると、資料 1 のプラン項目については、もう少し分かりやすい言葉を使用した方がよいのではないか、ということでもよろしいか。なお、施策体系図については、資料 2 プラン素案 2 2 ページに掲載している。詳細は次ページ以降を読むと理解できるようになっている。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 1 で「多様性」を使用することだが、基本目標 3 にも「多様性」という言葉が出てくるが、違いはあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 3 の「国際交流と多様性」は、座長、副座長からご意見を頂いたところである。先ほど申し上げた通り、国際交流には多様なあり方があるということ、日本

座 長	<p>人市民だけではなく、外国人市民、訪日外国人といった、いろいろな方との国際交流のあり方があるのではないかということ。多様性という言葉はこれら両方にかかっているという理解である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標 2 が「包摂性（インクルージョン）」となっているので、基本目標 1 に「多様性（ダイバーシティ）」という言葉を入れるということについて、他に何かご意見はあるか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 1 が意識啓発、基本目標 2 が具体的なサービス、基本目標 3 が国際交流という仕分けになっている。ダイバーシティ、インクルージョン、シナジーは、いずれにも当てはまる大事なキーワードである。それを無理に分けて当てはめようとするから混乱が生じているのではないか。基本目標が 3 つあるとするのではなく、基本理念の中に、ダイバーシティもインクルージョンもシナジーも大事だという説明をいれて、体系図の説明には、意識啓発のための施策の柱はこれ、具体的なサービスの充実はこれ、国際交流の推進はこれ、といった形で記載した方が、分かりやすいかもしれない。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 1、2、3 で担当部署は異なるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 同じである。文化国際課が担当する。
座 長	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 3 は観光課が所管ではないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドや観光施策については観光課が所管であるが、国際交流の部分、つまり友好親善交流や姉妹都市、姉妹城交流などは文化国際課国際担当が担当する。多文化共生と国際交流とあるが、近年は、多文化共生の方にウェイトが置かれている。兵庫県では、多文化共生部門が多文化共生プランを策定しているため、国際交流部門の内容はプランから除外されている。我々文化国際課国際担当は、多文化共生部門も国際交流部門もどちらの業務も担っている。姫路市としては、多文化共生社会の実現も重要だが、同時に国際交流部分も担っているので、どちらの内容も盛り込みたい。そのため、基本理念としては、「多文化共生社会の実現」と「国際交流の推

<p>委員</p>	<p>進」という2本立てでまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先ほど意見があったように、3つの基本目標の質が違うということが分かった方がよい。基本目標1は意識啓発や人権尊重などについて。基本目標2は多文化共生社会を実現するための手法、サービスのこと。基本目標3は市外や海外から来られた方などをおもてなしする方法、交流方法のことである。これら3つの基本目標の中身の質が違うということを、副題などで分かりやすくすると良いと思う。このままだと並列なので、どれも関係していると思ってしまう。 本来、多文化共生社会の実現と国際交流の推進は互いに関係し合っていると思う。その辺りも整理できるとよい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> なぜ基本目標を3つに分けたのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念の多文化共生社会の実現と国際交流の推進については、資料2プラン素案の21ページ、基本目標の詳細については22ページ以降に説明している。 アンケート調査等の結果をみると、一部の方々は意識が高く国際交流やボランティア活動にも積極的に参加されているが、全体としてはまだまだ意識啓発が必要である。また、生活支援は今後も拡充して行わなくてはならず、国際交流についても従来の取り組みを踏襲しながらやっていきたい。以上から、3つの基本目標に仕分けして今後も施策に取り組む予定である。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> そうすると、基本目標1と2のバランスが悪い。意識啓発が重要と言いながら、生活支援の方が、施策のボリュームが多いように感じる。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重点的に取り組む施策や表記上のバランスにより、施策体系として基本目標2がボリュームの多いように見えるが、基本目標1、2、3いずれも理念的に大切な項目であり、重要性の高い施策である。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 項目のうち、細かい施策と大まかな施策があることに違和感がある。例えば、基本目標1(2)「多文化共生の環境づくりと情報発信」の具体的施策に「姫路市国際交流センターの取り組み」とあるが、これは部署であって具体的施策の内容ではない。

	<p>一方、基本目標2の外国人に対する生活基盤の整備の部分は、詳細に記載されている。資料を見たときに何となくバランスが悪いような感じがした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標1(2)は、後のページを見れば具体的な内容が書かれているので理解できるが、一番分かりやすい施策体系図で、なぜここだけ具体的な内容がないのかと思う。 見た人が理解しやすいように、少しの文言の変更で変えることができるのであれば変えていければよいと思う。
座長	<ul style="list-style-type: none"> 確かに、具体的な記述と抽象的な記述が混在している。具体的施策の「姫路市国際交流センターの取り組み」、「(公財)姫路市文化国際交流財団の取り組み」をキーワード等で記載するのも良いかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 元々の考え方として、日本人向けの意識啓発、外国人向けの在住外国人支援、国際交流と分けていた。多文化共生社会を実現するためには、外国人と日本人を区別してはいけないのではないかということで、日本人向けの施策に外国人も含め、在住外国人向けの施策に日本人を含めるなど、どんどん付け加えたので複雑になっている感じがする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 潜在意識的に、受け入れる側と受け入れられる側があり、それが場面によって入れ替わる。外国人観光客であれば、「姫路に住んでいる人」が受け入れる側であり、「外からやって来る人」が受け入れられる側になる。実習生や研修生、就労目的で姫路に来た人であれば、その人たちが受け入れられる側になり、「企業やコミュニティ、行政」が受け入れる側になるが、そういった対象や場面ごとに分けて記載するともう少し見えてきやすいだろう。しかし、そうすると外国人と日本人、定住者と非居住者など、また「区別」を生み出してしまう。最初にカテゴリー分けをすると共生とかけ離れていくが、共生を議論するためにはある程度カテゴリー分けをしなければいけないこともある。これは、差別と区別とは違うということである。 税金、選挙権、防災いずれも行政のテーマではあるが、対象は全部変わってくる。しかし、日本人でさえも全てのサービスを受けられる人はいない。全てのテーマに対して対象を定めるのは難しいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料2プラン素案の説明に入らせていただきたい。

事務局	<p>(2) 次期プラン（素案）について</p> <p>【資料2（姫路市国際化推進プラン（素案））、資料3（姫路市国際化推進プラン（素案）概要版）に基づき説明】</p>
座長	<ul style="list-style-type: none"> 資料2の5ページの教育機関に、具体的な大学名を書いただければ分かりやすい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 同じく5ページの教育機関に関する記述で「大学等で留学生の受け入れ～」とあるが、中学や高校でも、外国から日本の学校に進学したいという要望がある。中国やインドネシア、東南アジアのみならず南米の国などからもニーズがあり、それに対応するための環境を整えているところである。今後、人口減少社会を迎えて、海外人材の育成を戦略的に、国家レベルでも進めていこうとしているので、姫路市のプランにもそういった内容を盛り込んでどうか。 文部科学省の関係者と話していると、大学等の留学生は日本の大学院を卒業しても、それを一つのキャリアステップにして海外に行ってしまう、日本社会に根付かないケースが多いと聞く。そういったことに対応するためにも、中等教育から日本型の教育を提供することにより、日本社会に愛着を持って、社会に貢献しようという意識を育むことが大切なのではないか、という話をしている。 市内の大学等と学校との連携を深めていき、高大連携のような形を取れば良いと思う。そういった点も盛り込めるようにお願いしたい。
座長	<ul style="list-style-type: none"> 「グローバル人材の育成と活躍促進」について、グローバル人材が日本人なのか外国人なのかが分かりにくい。 資料2プラン素案5ページの教育機関のところ、留学生等の受け入れについてはあまり書かれていない。受け入れを促進することを明記し、継続的に教育して、将来的に姫路の社会に貢献する人材となしてほしい。それがグローバル人材であると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 外国人リーダーの育成にも繋がっていくのではないか。

座 長	<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育から高等教育まで進んだ人たちが地域で活躍できると良い。資料2プラン素案5ページに、外国人を受け入れて継続的に教育することが、将来的に社会への還元につながる、というような内容を記載できればいいと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2プラン素案25ページ「包摂性のある社会の構築」の主な施策として挙げられている「VIVA!ひめじ」の編集ボランティアを20年余りしている。最初は3言語でやっていたが、今はやさしい日本語を含めて7言語で発行している。いつも翻訳ボランティアの方にご協力いただいているが、この市民アンケート調査結果を見ると、認知度が非常に低い。外国人の方が知りたい情報を多く取り上げているが、みなさんの元に行き渡っていないことに非常にショックを受けた。 ・一方、市内の小学校で総合学習の時間に多文化共生の勉強をやっていて、児童がZoomを使って「VIVA!ひめじ」について質問してくれる機会があった。いろいろなところに自分からも出向いて行って、もっと情報を発信しなければいけないと強く感じた。せっかく良い物を作っても、皆さんに周知されないのは非常にもったいない。もっと効率よく皆さんに知っていただく方法を考えていかなければいけない。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・前プランでも課題として挙がっていたが、いろいろな相談窓口やサービスがあるにもかかわらず、その存在を知らない人が多い。新しいプランでも周知方法などについて触れられていない。勿論、実際に運営する際にはプランを踏まえて施策に取り組まれると思うが、新しいプランでの言及が少ないのではないか。 ・国際交流センターを拠点にすることも大事だが、姫路も広いので、地域における国際交流の場づくりや様々な取り組みの周知方法について、プランの中で言及があってもよいのではないか。
座 長	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用も有効であると思う。SNS等を使えばすぐに情報が広まると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・意識啓発と共に情報発信は重要であると考えている。ただ、情報を受ける側が情報を取りに行っても情報が入ってくるので、個人が情報を取りに行っていないことも大きな課題である。このことに関して、プラン内で具体的に記述することは難しいが、施策についてはその都度検討しながらやっていく。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も「VIVA!ひめじ」の認知度が低いことにショックを受けた。私も「VIVA!ひめじ」を知人に配っているが、配布先が特定の人に限られるので、多くの人に見てもらえることが出来ていないのではないかと思う。例えば自治会や広報紙などで徐々に地域に発信していくことも必要だと思う。日本人が地域に在住している外国人のことを知っていたら、こういう所にこういうものがあると伝えられると思う。 ・外国人も日本人も「VIVA!ひめじ」をはじめとした施策を知らないのはもったいない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・プランでも「外国人リーダーの育成」「外国人コミュニティや関係団体等との連携」についても触れており、その辺りを通じた情報発信が出来れば良いと考えている。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信をどのように進めていくか、検討しなければいけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市はホームページも多言語対応になっているが、庁舎の多言語表示はいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎には英語表記はある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応があると、外国人の方も、我々は認知されているのだ、受け入れられているのだと認識できる。市役所だけではなく、いろいろな施設での多言語対応が進んでいくと、市民の意識啓発にも繋がる。国際交流の方では、姫路城周辺での多言語併記に関する記述があるが、外国人市民向けの多言語併記も進めていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に多言語表記をしている自治体はあるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体による。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・役所の各部局の名前を多言語表記にするということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおり。 ・アンケート調査結果でも、困りごとの中心は言葉である。こちらが多言語表記にすることと外国人の方に日本語を勉強していただくことの両方であると思う。今回、

委員	<p>母語教育の推進という項目が新規に入っている。他の施策は、従来の取り組みを充実させるような施策である。実際に財団の日本語講座や、地域の日本語教室には、多くの人々が来られているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語講座で学ぶ内容がそのまま学習者が必要としているものに結びついていないのではないかと最近感じている。日本語講座では、まずは文法を学ぶが、学習者が実際に困っているのは生活の場面であり、日常生活では活かされていない。場面に応じた日本語教育が必要ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学習者から、日本語を勉強しているけれど実際に日常生活では使えないということをよく耳にする。恐らく日本語講座ではマニュアルに沿って標準の日本語を教えているのだと思うが、姫路では播州弁がよく話されている。生活に必要なのは普通の会話。マニュアル化した日本語ではなく、実地で毎日使える日本語が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 財団では、文法など基礎学習は日本語講座で、会話は日本語ひろばでという住み分けがされている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験では点数が取れるが、会話が出来ない人も多い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 姫路市内の各地域にも日本語教室があるが、人は集まっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 各地域に日本語教室があることは把握しているが、参加人数までは把握していない。最近はコロナ禍の影響で休講している教室もあると聞いている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 私も地域で母語講座をやっている。外国人の子どもが多いため、地域の先生がベトナム語を習いに講座に来られることもある。しかし、毎週講座に参加される方が変わることで、学習内容が毎回変わり、なかなか言葉が身につかない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教室のサポートに関する施策を載せてはどうか。財団の取り組みで、地域の日本語教室と連携し、情報交換・共有する取り組みがある。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・財団が日本語教育関係者連絡会議を開催しているので、プランに掲載する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室との連携も大事なことである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の懇話会でも議論されたが、情報にアクセスできる環境がない。広報紙等での情報提供も有効である。ツールをうまく活用できればいいと思う。 ・「広報ひめじ」がなぜ多言語化されていないのか。「広報ひめじ」は、自治会長をはじめとし、町内会が協力して各世帯に配布しており、市民に広く浸透している。このように町内会の役員が各世帯に広報紙等を配布する体制は他の自治体では考えられない。このような仕組みにより、ある意味地域リーダーのような存在は既にいると思う。ただ、当然その人たちは日本語以外話せない人が大半である。 ・「広報ひめじ」は内容も充実している。市長の施策説明から文化・経済まで、ありとあらゆる分野を網羅している。予防接種の情報も掲載されている。「VIVA!ひめじ」は広報を抜粋して作成されていると思うので、これを自治会にも周知できればいいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・プランは指針であり、基本的な方向性を示すものである。本日委員に頂いたご意見は、個別の事業に関する内容も含まれているので、実際に施策を行っていく段階で、考慮しながら、できるだけ取り組んでいければと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生も大事だが、姫路には姫路城があるので、国際交流も非常に大事だと思う。ただ、コロナの状況次第だが、今後5年ほどは観光客も少ないと思われる。ウィズコロナの時代にどのような交流をするのかという視点は入ってこないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それについては、観光に関する議論になる。国際担当としては、従来から海外姉妹都市等との友好親善交流等を行っているが、コロナ禍で頓挫している。このような状況の中で、財団ではオンラインでの交流など、様々な形で国際交流に取り組んでいる。お城をはじめとした観光に関する分野については、観光戦略プランで触れるので、当該プランでは、多様な国際交流の推進について記すつもりである。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、滞在型観光やインバウンド観光の推進などを踏まえて、観光戦略プランを策定しているところである。インバウンドは早ければ2022年、遅ければ2023年以降、もしくは、さらに遅れるであろうという意見もある。実際にどのようになるかはわからないが、それを踏まえて昨年からはデジタル観光を進めている。観月会等をデジタル観光で実施した。今後は、人数制限をして、体温チェックや手指消毒などの感染対策を行いながら、お城まつり等、少しずつリアルな観光を実施する予定である。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他ご意見があれば、メール等で頂ければと思う。その後、座長、副座長、事務局で意見調整をして、また懇話会でご報告させていただく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆さまから多数の貴重なご意見等をいただいた。頂いたご意見を、座長、副座とも相談しながら、素案に反映させ、12月の市議会で報告したのち、12月下旬から1月下旬にかけてパブリックコメントを実施する予定である。 ・次回の懇話会については、パブリックコメントが終了する2月中旬から下旬を考えている。改めて事務局にて調整させていただく。 ・ <p>閉会（16:00）</p>